

## ウワバ類（タマナギンウワバ、ウリキンウワバ等）

### ○ 被害と発生生態

山口県では、年間数世代発生する。幼虫の被害は9月以降に多く発生する。卵は葉に1個ずつ産み付けられ、ふ化した幼虫は単独で葉裏から表皮を残して食害する。成長するにつれて葉に穴をあけたり、葉縁から葉全体を食べる。オオタバコガやヨトウムシのように結球部に食入することはない。幼虫は大きくなってもシャクトリムシのように歩くのがウワバ類の特徴である。葉裏などで白い粗い繭をつくって蛹化する。

タマナギンウワバの幼虫は、表面が平滑で刺毛はない。頭部は黄褐色で、胴部は淡緑色である。老齢幼虫は体長約35mmとなり、頭部が黄緑色、胴部は緑色で背面は白味をおびる。キャベツ、ハクサイ、レタス、ゴボウ等の野菜類を加害する。

ウリキンウワバの幼虫は、白と緑の縞があり、体表には角状の突起と小さな黒点がある。老齢幼虫は体長40～50mmになる。キュウリ、スイカ、カボチャ、ヒョウタンなどのウリ科植物の害虫として知られているが、ハクサイ、ダイコンなどのアブラナ科野菜も加害する。

### ○ 防除方法

#### （ア）耕種・物理的防除

- ・露地栽培では、ベタがけシートや防虫ネット（目合い2mm以下）で作物を被覆する。

#### （イ）薬剤防除

- ・薬剤抵抗性の発達は認められていないため、コナガやハスモンヨトウ等のチョウ目害虫の防除が行われているほ場ではほとんど問題とならない。



ウリキンウワバ幼虫（ハクサイ）



タマナギンウワバ幼虫（キャベツ）



ウリキンウワバ成虫